



平成 22 年 2 月号 未就学の部

寒かった日々も少しずつ暖かな陽射しと共に春の訪れを感じられるようになってきました。春を迎えるつぼみは例年の如く慌ただしい・・・こんなに慌ただしいのはつぼみの風物詩なのかもと思いながら、なんだかワクワクしている職員。なぜならつぼみの成長の裏には必ず子どもの成長があるからなのです。頑張ってきた子ども達の姿を確認し今後の目標を立てる時期。今年はこんな姿になって欲しいと願を込めて個別支援計画を立てました。

そして、子ども達もなんだかワクワク・・・頑張ってきた1年が終わりを迎える時期 色々な成長の足跡を残しましたね。結果だけではなく、ここまで頑張ったという姿を十分評価してもらいたいと願っています。



## 今月のすがた

「あけましておめでとうございます」と始まった1月もあっという間に過ぎていってしまいました。もう2月半ば過ぎ。あと一月もすれば、それぞれが進級・入学の時期を迎えます。「もうすぐ一年生」「もうすぐ幼稚園」「今度は幼稚園の一番上のお兄さん」などなどワクワクする時期ですが、一方では一年の締めくくりの大事な大事な時です。今一度「今」を大切に作る時かもしれませんね。



今年初めてのつぼみ。大きなお兄さんお姉さん達と一緒に、墨をたっぷり筆に含ませて、ちょっぴりドキドキしながらも静かな気持ちで「とら」と書いた書初め。広い原野を駆け回るトラのように元気いっぱいの「とら」の字が書けました。長良天神への初詣。最初から最後まで歩き通し、「これからもっともっと大きな一歩が踏み出せるような力」を感じました。通常日課になってからも、小麦粉粘土遊びのほか、ビニール凧作り・凧揚げ・福笑い・わたを使った雪だるまの制作・お餅作り等など色々なことに取り組みました。

そんな活動の中で気づいたことです。作った凧をまずお試しで揚げてみることにしました。勢いよくプレイルーム中を走り回ります。走る事も楽しい、凧も揚がってる？...たぶん。子供たちにとって後ろを向き走るのはかなり難しいことでした。公園での凧揚げでも、走り回るものの、自分で自分の凧が揚がっているのを見る事はやっぱり難しい様子でした。福笑いでもこんなことがありました。床のあちこちに置いたアンパンマ



ンの鼻や目、口、それぞれのパーツを探して、顔の上においていきます。「アンパンマンのお鼻あった。」  
「ほっぺはあかいよ」おなじみのアンパンマンの顔に子ども達も嬉しそうです。目の前にあるものは簡単に見つけることができました。



でも...自分の後ろにある、特に座った状態での後ろにあるものにはなかなか視線がいかないのです。日常生活の中でも、紙パンツの前はあげるけど後ろはそのまま、ズボンも同様。手をお尻の方に回して引き上げる、後ろを振り返って確かめるということができていないことが多いように思いました。シャツが背中からピラピラと出ていたり、スモックの後ろがめくれ上がったりしていても気にならない様子です。「前を見て歩こうね!」「足(足元)を見てお靴はいて!」ということはよくありますが「後ろ側」「背中側」を気に留めるということは少ないのかもしれない。

今月、未就学のクラスでは、いつもの療育や活動を大事にするとともに、基本的な生活習慣、基本的な体の動き等に注目して子供たちに声かけをしてきました。就園・就学までに身につけておきたい事は沢山あります。でも、日常の中で大人が手を貸してしまうことでやらなくて済んでしまっている事もあるかもしれません。時間を気にして待ってられなくてついついということもあると思います。つぼみでの生活の中で気づいた事はどんどんとミーティングやノートでお知らせしていきます。ご家庭での取り組みの様子もお知らせいただくと、色々な方向からの働きかけができると思います。「がんばったねえ」「できたねえ」の言葉が沢山増えるように、にっこり笑顔、自慢気な顔が沢山みられるように日々取り組んでいきたいと思えます。



## kのひとこと

kのひとことで、職員の紹介をはじめたのは、忘れもしないkがヘルニアで入院していたあの時からである。そしてまた、今もkは病室のベッドの上でkのひとことを書いている。いったいいつになったら健康な体になるのか?と自問自答しながら、自暴自棄になるkはあることを思い出す。そう、入院こそが、光陽福祉会発展の時、一回目の入院で、今の建物へ移り、二回目の入院で社団法人光陽福祉会が誕生。そして、TGW株式会社との業務提携。移動支援事業。

kの入院と共に発展する「つぼみ」今回は、そんな入院中に思いついた移動支援事業で、奮闘する移動支援の母であり、孫悟空いや、臼井先生の紹介だ。真面目でスポーツ大好きな臼井先生はヒョウ柄も似合う。あれは、確かつぼみでの臼井先生歓迎会の日、kの斜め前をヒョウが座っていた。そんな、お茶目な一面のある臼井先生は、スパルタ的指導に定評がある。もちろん愛情たっぷりのだ。福祉従事者は楽をしようと思えば簡単に楽が出来る。子どもと向き合うとき「よしよしもういいよ」って言えば、楽でしょ。もちろん、関わりの技術として、そういう技法を使う場合がある。しかし、臼井先生に妥協や諦めはない。「できるようにしたい。」そう思ったら猪突猛進一直線に進んでいく。それが、臼井先生魅力である。

光陽福祉会にはこんな素晴らしい先生がたくさんいる。だからこそ、このメンバーで新たな事業をスタートさせたい。SPM(スポーツマッサージ)おそらくこの事業は全ての自立の懇願となる。保護者説明会近日開演。